

令和4年1月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和4年1月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、市では、昨年12月に令和3年の10大ニュースを発表しました。

### 《令和3年 八戸市10大ニュース》

1. 是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録（7月）
2. 八戸市長選挙（10月）
3. 八戸市美術館開館（11月）
4. パナマ船座礁 八戸港沖に油流出（8月）
5. 八戸・久慈自動車道全線開通（3月）
6. 八戸西高校が春夏通じて初の甲子園出場（3月）
7. 八戸市内でオリンピック聖火リレー実施（6月）
8. 東日本大震災から10年、各地で祈り（3月）
9. 青森県で初となる新型コロナワクチン接種開始（2月）
10. 三春屋、従業員100人程度解雇へ（8月）

令和3年は、8、9月に新型コロナウイルスが八戸市内で拡大するなど、コロナ禍の1年でしたが、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録や八戸市新美術館の開館、八戸・久慈自動車道の全線開通など、明るいニュースもありました。

今年も引き続きコロナ対策に取り組む年となりますが、状況が改善され、社会全体が活気を取り戻し、明るいニュースが増えることを願っております。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

# 八戸 1月号 レポート

令和3年12月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	八戸市 ふるさと納税活用ガバメントクラウドファンディング実施
(2)	八戸市美術館開館1カ月 年間利用9万人超へ順調
(3)	熊谷市長が所信表明「新しい八戸へ全身全霊」
(4)	是川縄文館（八戸） 世界遺産PRへラッピングバス企画
(5)	八戸市「みちのく潮風トレイルで王林さんと学ぶ『防災・減災』」開催
(6)	「八戸駅西中央公園」整備事業 本年度で完了見通し
(7)	三陸沿岸道路が全線開通
(8)	八戸市副市長に佐々木郁夫氏就任
(9)	八戸市とライトカフェ（東京） スマート農業分野の共同研究開始
(10)	八戸市総合健診センター 田向に移転 1月4日供用開始

## 【産業】

記事	概要
(11)	南部バス動画制作 路線バスの旅PRへ
(12)	国内外643歳対象「酒蔵ランキング」八戸酒造が世界一
(13)	久慈-八戸間高速バス実証運行 今年も検討
(14)	2021年八戸港水揚げ 72年ぶり5万トン割れ
(15)	八戸港2021年コンテナ取扱量 7年連続5万本超へ

## 【地域】

記事	概要
(16)	八戸ブックセンターでブックハンティング 本との新たな出会い提供
(17)	八戸の島守さん 文具大手とタイアップ 海外向け漆塗り万年筆製作
(18)	八戸市八日町・番町 再整備構想進む
(19)	青森県南6市町村 2020年度成人式実施

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	八戸えんぶり 一斉摺り30分に短縮 会場は拡大
(21)	VISITはちのへ えんぶり伝承師4人認定
(22)	レスリング新強化体制 伊調馨、日本代表コーチに

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>八戸市 ふるさと納税活用ガバメントクラウドファンディング実施</b></p> <p>「本のまち八戸」を推進する八戸市は、ふるさと納税を活用した「ガバメントクラウドファンディング（GCF）」を実施している。GCFは、自治体がプロジェクトのオーナーとなり資金を調達するもので、八戸市では調達資金で多様な書籍を購入し、市内全小学校42校に配架する計画を立てている。八戸ブックセンターが中心となって児童、生徒向けに選んだ「おすすめブックリスト」内の本を購入する予定で、目標額は220万円。目標額に届かなかった場合でも、調達資金は書籍購入費に充てる予定。募集期間は1月30日までで、詳細は「ふるさとチョイス」のホームページに掲載している。</p>
(2)	<p><b>八戸市美術館開館1カ月 年間利用9万人超へ順調</b></p> <p>八戸市美術館がオープンしてから12月3日で1カ月がたった。12月2日までの来館者数は、計1万2131人で、このうち、開館記念展「ギフト、ギフト、」を観覧した人は7518人。このペースで推移すると、年間目標利用者数の9万人を上回る計算で順調な滑り出しとなった。「ギフト、ギフト、」は全館を活用する大規模展のため、一般の観覧料を1300円に設定したが、次回のコレクション展は比較的手頃な料金となる見込み。今後は無料の常設展も開き、内容も年4回程度変えていく考えで、幅広い層の継続的な来館に期待を込める。</p>
(3)	<p><b>熊谷市長が所信表明「新しい八戸へ全身全霊」</b></p> <p>八戸市の熊谷雄一市長は12月7日、就任後初の市議会定例会で所信表明を行い、市長選で掲げた9項目の政策公約を着実に推進するとした上で、「新しい八戸の創造へ全身全霊を懸けて取り組む」と決意を示した。行政や市民生活のデジタル化を加速させ、効率的な行政サービスを提供するため、民間人材の登用を視野に「デジタル推進室」を設置する考えも明らかにした。政策公約のうち、喫緊の課題には早急に対応するが、多くは新年度以降に順次、現在策定中の第7次八戸市総合計画に基づき、計画的かつ適切に予算措置を講じて実現を図るとした。</p>
(4)	<p><b>是川縄文館（八戸） 世界遺産PRへラッピングバス企画</b></p> <p>八戸市の是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録をPRしようと、市埋蔵文化財センター是川縄文館は12月10日、遺跡に関するイラストが描かれたラッピングバスの運行を始めた。イラストは市内の障害者就労支援施設の利用者が手掛け、創造性あふれるデザインの車両で、市民らに世界遺産をアピールする。同館によると、11月の来館者数は4427人。世界遺産の登録効果でツアーや個人客は増加傾向にあり、11月の来館者数で見ると、2011年の開館以来2番目に多かったという。ラッピングバスは1年間、市内各路線で運行される。</p>
(5)	<p><b>八戸市「みちのく潮風トレイルで王林さんと学ぶ『防災・減災』」開催</b></p> <p>八戸市は12月11日、同市の青森県立種差少年自然の家などで、体験イベント「みちのく潮風トレイルで王林さんと学ぶ『防災・減災』」をデーリー東北新聞社と連携して開催した。イベントは東日本大震災から10年の節目に、三陸復興国立公園に指定されている種差海岸の魅力を再認識してもらおうことや若い世代に防災意識を高めてもらうのが狙い。参加者は、トレイルのコース約3キロを歩いた後、「RINGOMUSUME（りんご娘）」の王林さんとの非常食作りや、防災教育事業を手掛ける「8kurasu」（釜石市）代表の久保力也さんによる講演などを通じて、防災、減災に対する意識を高めた。</p>

(6)	<p><b>「八戸駅西中央公園」整備事業 本年度で完了見通し</b></p> <p>八戸市は12月17日、八戸駅西地区の「(仮称)八戸駅西中央公園」について、本年度で整備が完了する見通しになったと明らかにした。2020年にオープンした多目的アリーナ「フラット八戸」に隣接しており、スポーツ大会やイベントなどと連動した交流の場を目指している。公園全体の面積は約1.7ヘクタールで、フラット八戸に近いエリアは既に供用されている。現在整備中の約1ヘクタールは本年度中に工事を完了した後、順次利用できる予定。事業費は3億5130万円で、国の地方創生推進交付金を活用した。今後はにぎわい創出に向け、カフェなどを想定した複合施設の整備を官民連携事業で検討する方針。</p>
(7)	<p><b>三陸沿岸道路が全線開通</b></p> <p>国が東日本大震災の復興道路として整備を進めてきた三陸沿岸道路は12月18日、未開通だった久慈インターチェンジ—普代村第16地割間(25キロ)が開通し、八戸市から仙台市までの自動車専用道路(総延長359キロ)が全線開通した。被災地を南北に貫く大動脈の完成で、岩手、宮城、福島各県の太平洋岸と内陸部をそれぞれ東西につなぐ復興支援道路4本を含む計約570キロの道路整備が終了した。国が整備した復興道路と復興支援道路を合わせた総事業費は、約2兆2千億円。今後、人や物の移動の活発化による観光振興、救急医療、防災体制の充実など多方面で復興を後押しすることが期待される。</p>
(8)	<p><b>八戸市副市長に佐々木郁夫氏就任</b></p> <p>八戸市議会は12月21日の定例会本会議で、副市長に元青森県副知事の佐々木郁夫氏を選任する人事案に同意した。佐々木氏は、三戸町出身で、1979年に県庁に入り、財政課長やエネルギー総合対策局長、企画政策部長などを歴任。2011年7月に副知事に選任され、2019年6月までの2期8年務めた。佐々木氏は会見で「市勢の飛躍、発展へ自分の知見を最大限に生かして貢献したい」と抱負を述べた。</p>
(9)	<p><b>八戸市とライトカフェ(東京) スマート農業分野の共同研究開始</b></p> <p>八戸市と、ITシステムの開発を行う「ライトカフェ」(東京)は12月21日、IoT(モノのインターネット)や人工知能(AI)技術を活用したスマート農業分野の共同研究を開始した。市農業経営振興センターを拠点に、ビニールハウスの温度や湿度、照度などの遠隔管理と、収穫物の収量やサイズを自動集計する技術の実用性などについて調べ、作業やコストの軽減につなげるのが狙い。手始めにイチゴ栽培を題材とし、今後はほかの作物にも広げていく予定で、同市に適したスマート農業の確立や普及に向けた研究を進めていく。</p>
(10)	<p><b>八戸市総合健診センター 田向に移転 1月4日供用開始</b></p> <p>八戸市総合健診センターが田向地区に新築移転し、1月4日に供用を開始した。新施設は同市青葉2丁目にあった同センターの老朽化に伴って整備が進められたもので、3階建てで、延べ床面積5750平方メートル、工事費は26億9764万円。1階には受付や待合ホールのほか、健康相談室や運動指導を行うウェルネスホールを配置し、2階はワンフロアで完結する健診機能のほか、女性に配慮した健診フロアを実現。3階には健診サービスの向上のため、日帰り人間ドック専用のラウンジなどを設置している。近隣には市立市民病院や市総合保健センターが立地しており、今回の整備によって、市民の命と健康を守る拠点としての機能がより高まる。</p>

【産業】

記事	概要
(1 1)	<p><b>南部バス動画制作 路線バスの旅PRへ</b></p> <p>「南部バス」を運行する岩手県北自動車（盛岡市）が、路線バスなどに導入しているバスロケーションシステム（バスロケ）の認知度向上を図るため、PR動画を制作している。昨年3月に導入されたバスロケは、スマートフォンなどでバスの現在地や停留所への到着時刻、遅延情報を把握でき、利用者の利便性向上に役立っているが、使い方などを分かりやすく伝える動画で、さらなる周知につなげたい考え。青森県内外からの観光客に路線バスの旅を楽しんでもらおうと、撮影は八戸市内と三戸町内などを回る2コースで実施。市内では、同社南部支社の社員が観光客の女性2人にバスロケの使い方を説明しながら、八戸駅を出発して市埋蔵文化財センター是川縄文館、マチコワ、櫛引八幡宮などを巡った。完成した動画は、同社ホームページなどで紹介する。</p>
(1 2)	<p><b>国内外643歳対象「酒蔵ランキング」 八戸酒造が世界一</b></p> <p>国内外の有力な日本酒コンテストでの入賞実績を点数化して酒蔵を格付けする「世界酒蔵ランキング2021」で、八戸酒造が1位に輝いた。初開催の2019年に3位、2020年は2位と毎年順位を上げ、2021年はランキング対象である国内外643歳のトップとなった。コンテストは酒文化研究所（東京）などで構成する実行委員会が主催。全国新酒鑑評会やフランスの「Kura Master（クラマスター）」、米国の全米日本酒歓評会など、六つのコンテストでの銘柄の受賞実績をポイント化し、酒蔵ごとに集計し格付けした。八戸酒造は「陸奥八仙特別純米」や「陸奥男山クラシック」など17銘柄が各コンテストで入賞しており、計1255ポイントを獲得した。</p>
(1 3)	<p><b>久慈ー八戸間高速バス実証運行 今年も検討</b></p> <p>昨年8月から10月に三陸沿岸道路を活用して実施された久慈ー八戸間の高速バス実証運行について、岩手県北自動車（盛岡市）は、今年の観光シーズンに再度の実施を検討する考えを示した。昨年の実証運行では、大型バスで久慈駅ー八戸駅間を1日4往復、最短1時間15分で結び、八戸市中心街にもバス停を設けた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で利用客は計983人とどまったものの、アンケートによると買い物や通院などの生活利用が見込め、今後は観光利用も期待できるとした。再度の実証運行に向け、運行ダイヤの改正やルートの一部変更などを検討する考え。</p>
(1 4)	<p><b>2021年八戸港水揚げ 72年ぶり5万トン割れ</b></p> <p>八戸市水産事務所は12月29日、2021年の八戸港の水揚げ実績（速報値）をまとめた。数量は4万4472トン（前年比27%減）で、72年ぶりに5万トンを割った。金額も86億7781万円（35%減）と、57年ぶりに90億円に届かなかった。主力のサバとイカが極端に振るわず、特に大中型巻き網船団のサバは、八戸近海で漁場が形成されず、八戸港以外に水揚げされたことが大きく影響した。また、今季は例年以上にしけが多く、操業日数が限られたほか、8月に同港沖で発生した貨物船の座礁事故に伴い、定置網漁やホッキガイ漁などの近海の操業に支障が出た。</p>
(1 5)	<p><b>八戸港2021年コンテナ取扱量 7年連続5万本超へ</b></p> <p>2021年の八戸港のコンテナ貨物の取扱量（20フィート換算、空コンテナ含む）が、5万5千本前後となることがわかり、7年連続で5万本の大台を超えるのが確実な情勢となった。輸出入とも実入りコンテナが増加し、新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ経済活動が徐々に回復傾向を示した。1～11月の実績で見ると、輸入は約10%の増加で、太陽光発電のソーラーパネルや風力発電の部品などの再生可能エネルギー関連や住宅部材などが増えたことが影響したとみられる。輸出は約3%の増加で、海外の景気回復基調を背景に、臨海部にある製造業の大規模工場が増産したほか、中国向けのタラやサバといった冷凍魚の取り扱いが増加したのが要因。また、世界的な空コンテナの需要増を背景に同港でも空コンテナの取り扱いが増え、全体の取扱量を押し上げた。</p>

## 【地域】

記事	概要
(16)	<p><b>八戸ブックセンターでブックハンティング 本との新たな出会い提供</b></p> <p>学生自らが、書店で学内の図書館や図書室に置く本を選書するブックハンティングが八戸ブックセンターで開催された。今年は八戸高専、八戸学院大、八戸工業大の3校が同センターで実施。参加したのは主に、学内の図書館運営に携わっている本好きの学生で、決められた予算の中で、「自分が専攻する分野の専門書」「将来に役立ちそうな本」「高価で自分では買えない本」など、さまざまな目的で選書した。学生と本との新たな出会いの機会が提供された。</p>
(17)	<p><b>八戸の島守さん 文具大手とタイアップ 海外向け漆塗り万年筆製作</b></p> <p>八戸市を拠点に活動する漆塗り作家の島守宏和さんが、創業110周年の老舗文具メーカー「セーラー万年筆」(東京)とタイアップし、海外向けに展開する万年筆の製作を手掛けた。日本の伝統工芸にスポットを当てた「Wabi Sabi (わびさび)」シリーズで、主に欧州で販売される。島守さんは、半年以上かけて万年筆の胴体部分などを製作。商品は赤と緑の2色あり、それぞれ88本ずつで、独自の漆塗り技法で凹凸のあるデザインを施し、あえて使い込んだような味わい深さや日本的な趣が出るように工夫した。島守さんは、オリジナルブランド「LANDPROTECT (ランドプロテクト)」を展開しており、同社が国内で販売する万年筆「伝統漆芸 麗」シリーズの製作も担っている。</p>
(18)	<p><b>八戸市八日町・番町 再整備構想進む</b></p> <p>八戸市中心街の八日町・番町エリアに浮上している再整備構想の一端が明らかになった。再整備の範囲は、三日町交差点から八日町の青い森信用金庫周辺までの約2.1ヘクタール。中心街のメインストリート(国道340号)にある八日町バス停から市美術館側に通り抜けられる歩道を整備するほか、立体駐車場も建設する計画で、事業費の一部には、国や青森県などからの補助金も見込んでいる。今後、地権者や土地所有者間で話し合いを進め、事業化を目指す。</p>
(19)	<p><b>青森県南6市町村 2020年度成人式実施</b></p> <p>新型コロナウイルスの影響で延期されていた2020年度の成人式が12月26日、青森県南地方の八戸、三沢、十和田、むつ、五戸、六ヶ所の6市町村で開かれた。各会場では、感染予防対策が徹底され、手指の消毒などに加え、ワクチン接種済証や陰性証明などの提出を求める自治体があったほか、式の規模を縮小する動きもあった。八戸市では、参加者を中学校ごとに午前と午後の2部に分けて開催。参加者が例年より減少し、コロナ禍を色濃く反映したが、1年遅れで晴れの日を迎えた新成人たちは、久々の再会を喜び合った。</p>

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	<p><b>八戸えんぶり 一斉摺り30分に短縮 会場は拡大</b></p> <p>八戸地方えんぶり保存振興会は12月5日、2月17～20日の「八戸えんぶり」の初日に八戸市中心街で各えんぶり組が競演する一斉摺りについて、新型コロナウイルス対策として、実施時間を例年より10分短い30分間とし、実施場所は広げる案を示した。時間は午前11時～11時半。会場は例年の三日町、十三日町、ヤグラ横町、六日町に加え、組ごとの間隔を広げるため、新たに十六日町も加える。行列は、鍛冶町を出発後、大工町から六日町・十六日町へ分かれる組と、ヤグラ横町から三日町・十三日町に分かれる組をつくり、順番は前回の2020年に合わせる。</p>

(21)	<p><b>VISITはちのへ えんぶり伝承師4人認定</b></p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISITはちのへ」は12月5日、国の重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」の保存伝承や用具などの制作に長年貢献し、今後も活動が期待される「えんぶり伝承師」に4人を認定した。認定されたのは、十一日町の石橋晃寛さん、細越の十文字正さん、剣吉の坂上誠さんと、3月に亡くなった上組町の下遠勇一さん。認定式は例年、えんぶりの開催に合わせて行っていたが、2月のえんぶりが中止となったため延期となっていた。認定は2006年から実施しており、伝承師は計71人となった。</p>
(22)	<p><b>レスリング新強化体制 伊調馨、日本代表コーチに</b></p> <p>日本レスリング協会は12月19日、2024年パリ五輪に向けた新強化体制を決め、精神面や技術面について選手から相談を受けて対応する「アントラージュ・コーチ」に女子で五輪4連覇の伊調馨（八戸市出身、ALSOK）が就任した。37歳の伊調は、練習拠点の日体大で女子選手の指導もしており、今後は代表の強化合宿に参加する見通し。東京五輪でレスリング日本代表は金メダル5個を獲得。パリ五輪でもメダル量産が期待される。</p>

はちのへ

## ふるさと寄附金のご案内

### 『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



### ふるさと寄附金の3つの魅力

#### ① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

#### ② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

#### ③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

## 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主幹] 川村 幸男 [事務員] 浜井 章代

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

### 申込み方法

#### 郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



#### インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



### 送付先

#### 八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。